

荒木山通信

2025年12月

第25号

北房文化遺産
保存会

(文責) 畦田正博

天神様と私

菅原道真公

戸村彰孝

今年も受験シーズンがやって来た。中高大と幾十万人が合格を祈願して天神様に殺到するだろう。

備中川の流域で最も有名なのは落合垂水の箸立天満宮であろう。私の友人の築沢君が先代の宮司をつとめておられた。北房地域では菅野の天神さま、井尾の天神さま、金比羅さまの内宮などが知られているが、最も大きな天神様は柴床さんを宮司とする宮地の天神社だと思う。※

私は昭和九年(一九三四)宮地の西福寺で生まれたので、同じ宮地の天満にある天神さまには遊んだ想いがある。天満のこんもりとした森に長く続く石段があり、頂上にお宮の境内があ



【宮地の天神社(石段とお宮)】

った。二才上の鈴木の延ちゃんを案内役として、江川の道ちゃん・金丸の敏ちゃん・傘屋の力アちゃんなどと遊んだ。その頃、祭神が平安時代に実在した道真公とは知る由もなかった。

昭和十六年太平洋戦争が始まった年、私は水田国民学校へ入学した。その頃のひな祭りの或る日、我が家に突如、天神様が到来されたのである。床の間に飾られたひな壇の左に、身の丈一尺五寸くらいの立派なアゴヒゲをたくわえた衣冠束帯の天神様

が飾られたのだ。横壁には、天皇から賜った恩賜の御衣をしみじみと眺める人の姿の掛け軸が掛けてあった。その繪の上部には詩か歌が書かれていたが、「恩賜の御衣今ここにあり・・・」という漢詩であったのか、「東風吹かば・・・」の名歌であったのか、今となっては確かめる術もない。

生まれて間もない弟を背負っていた母は、「天神さまは偉い学問の神様です」と教えてくれた。――天神さまとの初対面であった。長じて十年後、箸立天満宮に隣接する落合高校に入学した。道真公十四才の頃、父上の公務に従って高田(今の勝山)へ行く途上、昼食をとった場所が今の垂水の箸立天満宮の場所です。食後に箸を立てて去った跡に生えたのが、県の天然記念物に登録されている樹齢千年の



【箸立天神伊吹ヒバ】

「伊吹ヒバ」だと伝承されている。落合高校は、前身が高等女学校で天満宮に隣接していた。その故もあってか、校章は京都の北野天満宮と同じ梅の紋章、校歌には白梅が詠み込まれていた。

“白梅はゆかしき花よ風雪をしのぎて潔くふくいくとほのかに匂うふくいくと白梅のごとわが心すがしくあらむわが操凛々しくあらむ”

清純・高潔な人材を育てようという教育理念のにじみ出た秀歌であると思う。因みに、天満宮の白梅の様子を聞いてみた。北野天満宮には五〇種一五〇本(白四〇%、紅六〇%)、太宰府天満宮には一九〇種六〇〇本(紅白五〇%)の梅林の姿だった。三大名園の後楽園では約一〇〇本(白六〇%、紅四〇%)だという。

※宮司が昨年から柴床氏から有漢の中山氏に代わっている。



【落合高校の校章】

8月以降の

保存会の活動から

■案内看板の設置

8月26日(火)

荒木山古墳の南側登坂道の入口や坂道の途中の案内看板を新しくしました。地図や注意など分かりやすく表したアルミ板です。



【看板取付作業】

(実行委サービス班)
9月28日(日)

荒木山古墳の草刈りや墳頂部の枯れ枝の片付け。定古墳群への通路の上に覆い被さっていた木の枝の伐採や大谷一号墳の墳丘部の草刈り作業。



【定古墳進入路】

枝切り作業

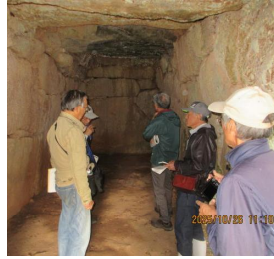
(保存会員6名)

10月26日(日)

第2回ガイド養成講座。
定東塚・西塚古墳について現地研修。講師は奥田・網本会員。MITの取材もありました。参加一五名。



【古墳探訪のポイント等を説明】



【東塚古墳の石室内での説明】

11月16日(日)

荒木山古墳と大谷3号墳の柴掻きや草刈り。二手に分かれて作業。

(会員8名)



【きれいになった
大谷3号墳】

「萬葉集」から見た古代(五)

―農民―

三輪 能章

前号では、山上憶良の歌から、農民の窮状をみました。山上憶良がこの歌を詠んだのは筑前守在任の七三〇年前後です。

では、それまでの経過をみてみます。

紀元前四〜三世紀に稲作が伝来してから、生活様式は定住型社会へ移行しました。そのことは安定した食料供給が可能になり、同族村落共同体の形成を進め、「ムラ」という氏族社会になります。

やがて紀元一世紀前後には余剰生産物「富」を管理し分配する「広域共同体」が「クニ」の基本として発達します。氏族社会から首長社会への転換です。

弥生時代後期二〜三世紀に租税制度のもとがあったことが分かります。中国の歴史書「魏志倭人伝」に、倭国「邪馬台国、卑弥呼」の時に、「租賦を収む。邸閭あり」、つまり「租税や賦役の徴収が行われていて

収める倉庫がある」と。その後に「国々には市場が開かれており、それぞれの産物の交易が行われてる」と記されています。

「租」は収穫物(穀物等)「賦」は労役で、「邸閭」は米などの食糧を貯蔵する建物です。そして、交易による国々の繋がりがあったことが分かります。三世紀中頃の邪馬台国は、この繋がりの中で約三〇の小国を従える地方の連合国家となり、卑弥呼が女王として君臨していました。

その後、四世紀〜六世紀には、それらの各地方連合をさらに広域拡大して王権の頂点にたつたのがヤマト王権です。前方後円墳を含む古墳の広がり、ヤマト王権の拡大に大きな役割を果たしています。

しかし、ヤマト王権は、まだ地方の連合国を完全に掌握できていませんでした。各連合国のそれぞれの国は未だ独立国家として、豪族

・国造(くにのみやつこ)が支配していました。

やがて七世紀、ヤマト王権は「乙巳の変」の「改新の詔」により連合国家から、天皇中心の大和朝廷による中央集権国家へ転換を進めていきます。天武朝は五畿七道という、広域地方行政区画を設定し整備します。

区画内の旧来の「国」を分割(六八九年、吉備国を備前・備中・備後に、七一年、備前から美作を分国など)し、各国に「評(こおり)」を設けて地方の勢力を弱体化しています。

これらの整備と同時に、大和朝廷は政治的支配権力をもつ「大和朝廷政権」へと、さらに様々な政策を行っています。

その最も中心となるのが「律令」の施行と徹底です。「律」は刑法、「令」は刑法以外の行政法などです。

大和朝廷は、「近江令」「飛鳥浄御原令」(上記二つは令のみとされる)「大宝律令」「養老律令」と、七世紀中頃から八世紀中頃にかけて「令」と「律令」を出しています。

これらは、中央集権制度確立のため必要であり、特に「大宝律令」(七一〇年)は基礎法整備の重要な法令でした。

旧来からの国によって異なる「租」「賦」を、「律令」の中に「税制度」として法文化し施行します。「律令」の「戸令」「田令」「賦役令」「職員令」などの「令」は、農民に直接かわる基本法です。

そして、「国」に「司(つかさ)」または「守(かみ)」が中央から派遣されました。「郡(以前の評)」には、最初「郡司」として旧国造の子孫(在地豪族)が任命され多くは世襲で終身官でしたが、その後中央から任命派遣されます。「里長」は里を管轄しますが、「郡司」の下で雑用を行う地元の長老(村)役であり権限は少なかったようです。

制度に必要な戸籍は六七〇年の庚午年籍が最初の全国的な戸籍です。その後六九〇年に、より詳細な情報を含む庚寅年籍を作成し、これをもとに五畿内の口分田班給がされました。

その後の大宝律令の「田

11月23日(日)

秋晴れの空の下、大谷一号・三号墳と定東塚・西塚古墳を巡るウォーキング。説明担当は、イベント班の奥田・網本会員。参加三三名。(実行委イベント班)



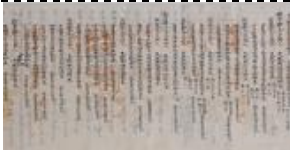
【大谷一号墳での集合写真】

実行委員会(毎月)



西の明日香村北房をめざしての取り組み

三班に分かれて取組についての協議・検討。



【大税負死亡帳(正倉院文書)】

らく同じような内容であつたと思ひます。次号は、律令の内容から農民の実態を見てみます。

令」で本格的に「班田収授」を行い、農民に口分田を班給し直接個別支配を行います。豪族・国造の力を弱める制度が始まったのです。六年に一度の「造籍」が始まり、五〇戸一里を基準に各戸主を中心に家族構成を把握し、班田収授と人頭税の台帳になったのです。この台帳「造籍」から課税を徴収するための「計帳」と、死亡者に関する帳簿「死亡帳」などが毎年作成されました。

正倉院文書に「天平十一年備中国大税負死亡帳」があります。備中国九郡(都宇・窪屋・賀夜・下道・浅口・小田・後月・哲多・英賀)のうち、都宇・窪屋・賀夜の順序で、各郷里別に大税負死亡人が列記されてとても貴重な資料として有名です。残念ながら英賀郡は残っていませんが、おそ

講演記録

2025

西の明日香村北房フォーラム記念講演

『文化遺産を活用して〇〇する』

東京大学 松田 陽 先生

(23号からのつづき)

文化遺産を活用して

〇〇する。

〇〇の所にいろいろなものを入れてみるとよいのでは・・・。

二〇一九の文化庁のハンドブック「UNIQUE VENUES(ユニーク・ベニユ)」から

- ①重要文化的景観の棚田を染める幻想的灯火
- ②名護屋城跡並陣跡にて野外レストラン
- ③古民家で神楽を鑑賞
- ④お寺でコンサートと利休ゆかりの名刹でプレミアム公演
- ⑤大正時代のピアノを県指定文化財で演奏コンサート
- ⑥特別天然記念物でスポーツイベント 秋吉台カルストTRAILRUN
- ⑦文化財の拝殿で能楽や洋楽を披露
- ⑧近代化遺産と最新映像技術の融合3Dプロジェクト ヨンマッピング などが掲載してあります。

特別な場所で行うというユニークな活動の紹介です。

▼海外の例

- ①スペイン ウブリケ郊外オクリ遺跡で古代の演劇場で演劇を実施しています。
- ②イギリス ストーンヘンジ「あなたへのストーンヘンジ一五〇年プロジェクト」過去一五〇年間に訪れて写した人々の写真を募集。その数々の写真を展示する取り組みです。ストーンヘンジが一〇〇年以上の時を経て、人々を結び付けていると思います。

▼国内の例
①神奈川県茅ヶ崎市「遺跡まちづくりBook」↓古老にインタビュー調査を行い、地域の人々にとつて町のそれぞれの場所がどんな所だったのかを記録していきましました。聞き取り調査によつて分かったことを現在の地図に落とし込む作業をします。これにより古老の知る昔のことが一つ一つ記

録できました。自分たちの場所として文化遺産を見ることは重要なことです。↓茅ヶ崎アーバンデザインセンター参照

②「ブラタモリ」の話

「諏訪くなぜ人々は諏訪を目指すのか」(二〇二一年八月二一日放送)

人気の観光地・諏訪は縄文時代もとても人が集まる場所だった?今も昔も人が諏訪を目指す理由をタモリさんがブラブラ歩いて解き明かす!▽御柱祭の木落し坂は断層でできた?

ブラタモリという番組でタモリさんが解き明かすことは、参考になります。茅ヶ崎アーバンデザインセンターの取り組みでも分かるように、地図の中にストーリーがある。地形というのは使える素材であると思います。

このように考えてくると、「文化遺産を活用して〇〇する」とは、「自分たちの場所づくり」であり、「地域のアイデンティティをつくる」ことであると思います。すなわち「私たちの北房という場所」をつくっていく取り組みです。(梶上 守)

特別寄稿

鉄鉱石を探して

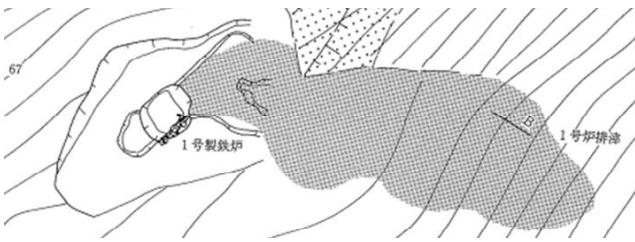
鬼ノ城たたら倶楽部

西江清吾（倉敷市）

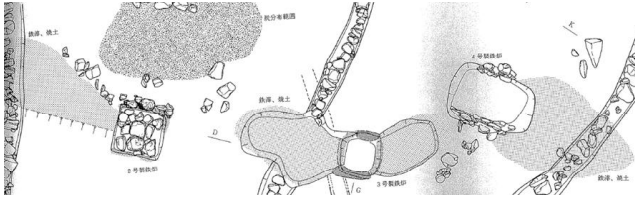
一九九九年、総社市教育委員会発掘調査の千引カナクロ谷製鉄遺跡（以下「千引」）は、製鉄炉四基、炭窯二基が発見され、年代は六世紀後葉といい、日本最古の発見として騒がれました。地元では有志が集い（鬼ノ城たたら倶楽部発足）、製鉄遺跡の再現・研究を続けています。もう二〇数年

になります。主に砂鉄を原料に、秋には年一回のたたら操業（砂鉄を溶かして鋳をつくる）し、鋳から鉄製品（刃物）の鍛冶（鍛錬）作業を楽しんでいます。

今の課題は、鉄鉱石から鋳をつくること。なぜなら発掘された「千引」では鉄鉱石（磁鉄鉱）の破片も発見されているのです。長年鉄鉱石を探してきましたが、なかなか良質な鉄鉱石（鉄分含有量三〇～五〇％目標）が見つかっていません。以下は、鉄鉱石を探しながら見聞きたことです。



【千引カナクロ谷製鉄遺跡1号炉】（25cm等高線）



【千引カナクロ谷製鉄遺跡2・3・4号炉 配置図】

数ヶ月前から知り合いに案内されて、鉄鉱石はないだろうかと、井原市美星町、荏原方面、真庭市北房地域を訪ねて歩きました。中でも北房地域では、北房IC入口の「国重為家の郷」刀のモニユメントから、阿口にたどり着い

て阿口神社にもお参りしました。地元の「杉さくらの杜育てて観る会」相原さんにお会いして、荷卸しという地名に建つログハウスで、各種鉄滓（ノロ）を見せていただき、小冊子「阿口の遺産」の説明を聞かせていただきました。何と、製鉄・鍛冶・作刀に関わる一大集落があった事を彷彿させるお話でした。次に北房図書館で「北房町史 通史編上」（平成四年（一九九二）、以下「通史」）に出会って、日本刀「国重」をはじめとする、備州作刀集団等の歴史が読み見えてきました。同時に阿口には鉄鉱石があるかも知れないと、夢が膨らんできました！

阿口の鉄では歴史的に二度栄えた時期があったのではないのでしょうか。浅学ですが、最初は後期古墳時代の有力者の保護で「千引」から伝播して、郡衙があるらしいし、農具・武具等で栄えた時期があったのでしょうか。次は、室町・戦国時代の武器需要に応えた作刀集団の繁栄期でしょうか。戦のない江戸期以降は名刀づくりに勤しんだことでしょうか。いずれにしても時代の先進的な製鉄・作刀産業により多くの人で栄えたことでしょうか。小生なりに俯瞰してみますと、六世紀後葉に「千引」で製鉄技術が日本へ上陸した（朝鮮で三国時代が終わる頃、戦乱を逃れた製鉄・作刀集団を古備の有力者がスカウトして初めて吉備に技術を伝えた）。そして、大化の改新（六四五）前後頃から、豪族を中心とした緩やかな首長連合から倭政権の中央集権体制へと進む途上のできごととして地方豪族（有力者）に保護された製鉄・鍛冶集団が一〇〇年ぐ

その頃県内に伝播していった製鉄遺跡をネットで見ると、六世紀から七世紀にかけて赤磐市旧熊山町の猿喰池製鉄遺跡、笠岡市東大戸の鉄塊遺跡、津山市旧久米町の大蔵池南製鉄遺跡の発掘調査記録では、「千引」の基礎構造（一辺約1mの方形）が似通っているように見えます。燃料の炭づくりや鉄鉱石を赤める、通称「ヤツメウナギ」の炭窯もあるようです。

名刀「国重」談義はまたの機会にしましょうか！

※ 鉄でい…鉄を運びやすく板状にしたもの

◆ 製鉄遺跡の測量図は、「奥坂遺跡 群発掘調査報告書（一九九九年・総社市教育委員会編）」より

ふるさと紹介

井戸鐘乳穴神社
当屋（頭屋）祭



【井戸鐘乳穴神社】

北房地内上水田の井殿地区の井戸鐘乳穴神社（延喜式内社、祭神大名持命）

の当屋祭は、「北房町史民
族編」（昭和五八年発行）
や「岡山の祭り」と行事下」
（山陽新聞社・昭和五八年
発行）にも取り上げられて
いる。この度、祭を実見し、
関係の方への聞き取り調査
をする機会があり、紹介し
たいと思う。

祭りの担い手は、ソリク
ジで選ばれた当屋と清浄
人である。清浄人は、祭り
の際神に接する神聖な役で、
もとは少年であったが現在
は大人の場合が多い。

大祭は十一月三日で、そ
れまでに、酒部屋かけ・餅
つき・注連ない・水神まい
りが行われる。（かつては
三日であったが、現在では
二日で）

大祭当日の朝、オハケお
ろしが行われる。敷いたム
シロで、宮司が祝詞をあげ
る。その後、神社拜殿での
神事が行われる。おりゑ・
供田物舞い（福の種蒔き）
・布の舞い・四神祝詞・ツ
リクジ（次の当屋を決める）
である。その後、神輿が出
ていたのだが今はご開帳の
みである。

かつては午後三時過ぎに



【オハケあげ】

（向こうに酒部屋が見える）

神輿が帰ってから夕方から
夜にかけて当屋での神事が
行われていた。今は神社で
の神事に引き続いて、オハ
ケあげ・酒部屋祭り・おり
ゑ・供田物舞い（福の種ま
き）・火の祭り・稲の祭り
・直会が行われる。昼頃
には終わるようになった。
どの祭りや行事でもある
が、少子化や過疎化の波で
氏子（特に若い世代）が減少
したり、社会情勢等の変化
で存続が難しくなってきた
いる。当屋祭も餅つきや注
連縄などを外部委託するな
ど、できるところは簡略化
し、時間の短縮も図るなど
実情に合うよう工夫してい
る。基本は大事にしなが
らも負担を少なくしたりして、
伝統と歴史のあるこの祭の
存続を図っているとのこと
である。



【火の祭り】



【酒部屋（内側）】

【酒部屋】 当屋の家の奥の
間の縁側の外に茅で囲まれ
た中に棚を設けたもの。式
内十八社の十八重の鏡餅が
供えてある。

【オハケ】 カワラケの器に
飯・煎り干し・酒を入れて
蓋をして白紙で包んで水引
で縛ったもの。先に茅束を
くくりつけ御幣をつけた三
本の青竹の前にそれぞオハ
ケを置き、上に芝を四枚ず
つかぶせる。

【供田物舞い（福の種蒔き）】
床の間に供えてある餅など
を清浄人が客人にまく。

【火の祭り】 清めた灰の中に
丸餅を埋め、その中に青木
の葉を敷き並べ宮司が「渡
るよ、渡るよ、川の西方を

渡るよ」と唱えながら渡る。
かつては囲炉裏であったが、
今は火鉢である。《火の
災いを避ける》

【稲の祭り】 敷いた新しい
ムシロの上に「尻たて」と
いう一束の藁を立て、それ



【尻たてに五穀を注ぐ】



【押し倒された清浄人】

※ 豊田宮司・井殿の森岡氏に
は大変お世話になりました。

水島に古墳が多いのはなぜか

― 製塩と大和王権が結びついた古代の姿 ―

倉敷市

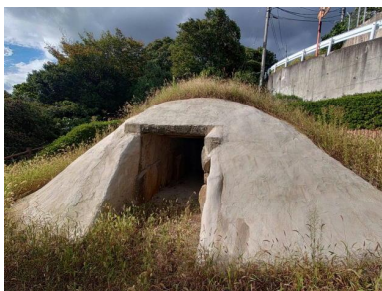
山崎弘大（高一）

倉敷市水島といえば、現
代では工業都市のイメージ
が強い。しかし、水島から
児島にかけての山地には、
実は後期古墳が数多く分布
している。もちろん、古墳
は干拓地には存在しない。
古墳が築かれたのは、過去
に島だった山の上であり、
現在までに約五〇基が確認
されている。

だが、ここで疑問が生ま
れる。古墳時代の水島は辺
境で、田んぼをつくるのに
適した土地とは言えない。
農耕に向かないこの地域に
なぜ多くの古墳が築かれた
のだろうか。
この疑問を解くヒントは、
海を渡った香川県の喜兵衛
島にある。喜兵衛島は非常
に小さな島だが、何と一八
基もの古墳が確認されてい
る。ここにも水島と同じく、
農耕ができる平地はほとん
どない。
その理由を解く鍵になっ
たのが、古墳のすぐそばで

に五穀をそそぐ。その尻た
てを背負った清浄人を宮司
が押し倒す。《五穀豊穰
を願う》

（畦田正博）



【茂浦1号墳】

見つかった「製塩炉」である。つまり、喜兵衛島の古墳は、塩作りを行っていた人々の墓だったと考えられるのだ。

では、水島はどうだろうか。実は、水島周辺の古墳の麓には、必ずと言っていいほど製塩遺跡があるのだ。例えば、福田地区には七基からなる湾戸古墳群があるが、これらの見下ろす先には湾戸遺跡という製塩遺跡がある。連島地区には茂浦古墳群や辻堂古墳など多数の古墳が分布するが、麓にはやはり製塩遺跡の大江遺跡がある。また、これらの遺跡を埋蔵文化財分布図で見比べてみると、面白いほどきれいに対応することに気づく。

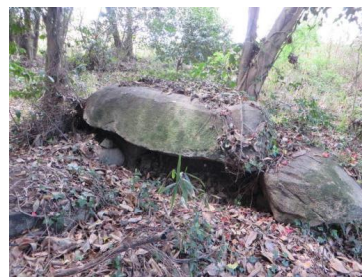
これらの事実から、水島の古墳は、塩の生産に関わ



【茂浦6号墳】

った集団の墓だったのではないか」という説が強くなる。塩作りに関わった集団の首長の墓がこれらの古墳なのであろう。

しかし、ここである疑問が浮かぶ。水島に住む人々は何を食べ、どうやって生活していたのだろうか。もちろん、人間が塩だけで生活することは不可能だ。食料となる農産物が必要だし、塩を他の物資と交換するためには物流を仲介する存在も必要だ。そこで浮かび上がるのが、「児島の屯倉」の存在である。屯倉とは、大和朝廷が地方を直接支配するための役所で、児島の屯倉は五五六年に設置された。この時期はまさに水島で古墳が増える古墳時代後期と一致している。さらにこの屯倉は強い権力を持っていたと考えられている。その象徴が、屯倉の首長の



【辻堂古墳】

墓と考えられる八幡大塚古墳である。全長六四mの大きな前方後円墳で、大型の石室と長持形石棺を模した石棺を備えている。

つまり、児島の屯倉を中心に塩生産が組織化され、その従事者の墓が水島や児島に築かれた古墳だったと考えられるのである。

このように考えると、後期古墳時代の水島地域は、吉備の伝統的な勢力ではなく、大和王権の直接的な影響下にあったことが分かる。北房地域とは別に、水島にも大和の力が及んでいたとみられる。水島の古墳は、その背後に広がる大和王権の影響力を今に伝えているのかもしれない。ちなみに平城京からはこんな木簡が発見されている。「備前国児嶋郡三家郷 牛守部小成

墓と考えられる八幡大塚古墳である。全長六四mの大きな前方後円墳で、大型の石室と長持形石棺を模した石棺を備えている。

つまり、児島の屯倉を中心に塩生産が組織化され、その従事者の墓が水島や児島に築かれた古墳だったと考えられるのである。

このように考えると、後期古墳時代の水島地域は、吉備の伝統的な勢力ではなく、大和王権の直接的な影響下にあったことが分かる。北房地域とは別に、水島にも大和の力が及んでいたとみられる。水島の古墳は、その背後に広がる大和王権の影響力を今に伝えているのかもしれない。ちなみに平城京からはこんな木簡が発見されている。「備前国児嶋郡三家郷 牛守部小成



【茂浦古墳群から水島を望む】かつて海だった所は干拓され、住宅と工場が立ち並ぶ

山守部小廣「二人調塩二斗」。備前から塩が納められた、と。

令和8年度 北房文化遺産保存会 総会

○日時 一月一八日(日)
午前一〇時半～

○場所 北房文化センター
(二階) 研修室

○講演 (昼食後)
・演題 「岡山県北の考古資料からさぐる渡来人」

・講師 美咲町生涯学習課学芸員
(元大阪文化財研究所総括研究員)
田中清美 先生

(田中先生は、荒木山西塚発掘現場にお見えになったこともあります)

白雲夢幻

大和路はるか

よく晴れた午後
山はいよいよ高く聳え
頂上の大木は空へと尖り
白い雲を纏っていた
私は山を登り詰め
大木によじ登って
白い雲に潜り込んだ
「やれ／＼」大きな安心
に満たされた
暫くして白い雲が大木を
離れ大空をゆつくりと
流れて行く

私は喜びに包まれ
過去の記憶をすっかり
無くしていた
さて、白い雲は次第に
溶け始め 大空の中へ
消えつつあった
白い雲に同化した私も
また溶けていく
「夢は突然覚めた」
なんと好ましいこの世との
決別であろうか

入会のすすめ

※令和八年度の会員を募集
しています。申込用紙は、
北房文化センターに置いて
います。